

総社市図書館のホームページより

総社市・中学校図書館と 公共図書館との連携

総社市教育委員会学校教育課
坂本 満理枝

総社市では、平成二十一年度に岡山県緊急雇用創出事業補助金を活用し、市内小学校十五校と中学校四校の図書室の蔵書約十八万三千冊のデータ化作業を図書館流通センターに委託して実施しました。
平成二十二年三月には、作成した



No.113

データを基に全小・中学校に図書館システムを導入し、蔵書管理や貸出・返却等をコンピュータで行うようにしました。



横断検索システム稼働式（総社中央小学校）

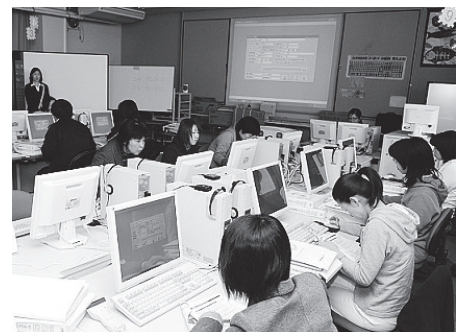
さらに、平成二十二年六月から、小・中学校の検索用サーバを市の情報管理室に設置し、市図書館の検索用サーバとのネットワーク化を図り、学校や家庭においても、市図書館のホームページから、約三十八万冊の蔵書を横断検索できるようにしました。

このことにより、市図書館と市内各小・中学校の図書室の蔵書の共有化が実現し、子どもが自ら読みたい本を探ることができるようになったほか、子どもの読書傾向もよく分かり、読書指導にも役立つようになりました。また、授業で調べ学習を行う際も、テーマ別に検索することができ、求める資料を容易に探すことができるようになった。

子どもは、コンピュータで図書の貸出・返却ができるのが、とても楽しい様子です。図書室に足を運ぶ子どもが増え、図書の貸出冊数も小・中学校ともに、システム導入前の約一・二倍に増えています。

本の予約についても、今まで実施していなかった学校で受付を開始するなど、好評を得ています。さらに、図書館システムを導入したことに伴い、図書館流通センターの発注管理システムを利用するようになりました。そのことにより、学校司書が、図書の受け入れにかけていた時間の短縮ができ、子どもとかわる時間を確保できるようになりました。

総社市には、学校司書十一名が、各小・中学校に配置されています。今回の蔵書データ化作業や学校図書館システムの導入、維持管理を進



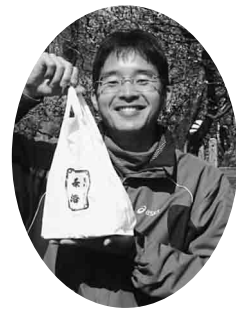
学校司書図書館システム研修会

めていく上で、学校司書が果たした役割は、大変大きかったと思います。これまで、市図書館は、自動車文庫による学校巡回、学校への団体貸出、図書館見学、ボランティアによる読み聞かせ、小学校向けの図書館だよりの配付、ティーンズコーナーの新作図書パンフレットの配付などを行い、学校司書と連携を図りながら、読書活動の普及に努めてきました。

小・中学校図書館の蔵書がインターネット上で検索できるようになったことから、今後は、図書の有効活用と相互利用の促進を目指し、小・中学校図書館と市図書館の相互利用についての規約を作成するなど、求める本が、読者の手元により一層円滑に届くようなシステムを構築してまいりたいと考えています。

☆個人会員の紹介☆

倉敷中央高等学校
加茂 清太郎



毎回楽しく拝見していたこのコーナー、お受けしたものの研究成果の持ち合わせも何もないので、日頃の勤務の様子をごらんください。

(二年前の) 七月某日

生徒が楽譜を持って「これ何ですか」というので見ると「ten」とある。「テヌートじゃないの?」「でも私、打楽器なんです。ありえますか?」食いがられ自信がなくなる。さつさと音楽辞典でテヌートを引けばよかったのに、音楽記号から引く方法はあるだろうか。この時点では本当なら読み方すらわからないわけだし…などと悩んでいたら時間がなくなってしまう。自分の興味関心は後回しにすべきだったと反省する。

(今年度の) 八月某日

仕事を終え自転車置き場に向かう途中に生徒が「先生夏休みなのに何

で来てるんですか」「いやほら、注文した本も届くし新学期の準備もあるし」と応じるが、毎日勤勉に働んでいたのにシヨックだ。

十月某日

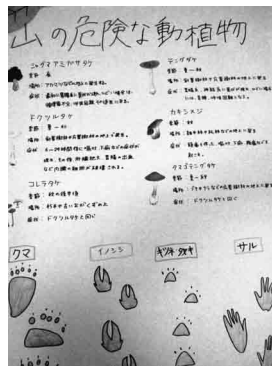
蔵書検索パソコンを使っていた生徒から「無(ね)え」という声が入る。書名検索で「肝硬変」と入力したそうだが、書名に専門的な病名が入った資料はあまり多くないだろう。もっと大まかな検索が必要なので「肝臓は何科(内科、外科、神経科など)?何器(呼吸器、消化器、循環器など)?あと、看護学の棚の疾患別看護過程の本にも載ってるよ。」とヒントを出す。書架に来て、背表紙の書名だけしか見ずに諦めてしまう生徒が多くて心配になってしまふ。「目次をごらん」と機会あるごとに言っているのだが…。

学校図書館を、情報検索技術を身につける場にしたと考える司書は多い。でも、通常の「検索したらとんでもない数ヒットするから絞り込みを」という作業とは全く逆の作業が必要だったり、クラス全員に同じ課題が出てみんな一斉にやってきたら、パソコンで検索するよりも書架に直接行ったほうがずっと早いし、なかなか思うようにはいかない。

十月某日

図書委員による読書週間特別展示

のテーマが『山ガール』に決定。このうち「山の危険な動植物」担当の子にハンディ図鑑と模造紙を渡しなから「イラストがいっぱいあるとうれしいな」とお願いする。後日「できました」というので見ると、何たることか動物の足跡の絵が並んでいる。生徒に何かを頼むと、こちらの思惑から外れることも多いが、これはこれで楽しい。



図書委員による展示
まさか足跡でくるとは…

十一月某日

生徒が山田悠介の本を三冊持って「どれが面白い?」「うーん、僕、この人あまり好きじゃないんだよね。」歳のせいかな生徒と好みが合わなくなってきたことが最近の大きな悩みだ。近くにいた別の生徒が助け舟を出してくれるが「これは普通、こっちは尻すぼみ、これはいまいち。」全然薦めてないじゃないか。作戦を変えて「これが一番新しくて人気だから、今日を逃したら借りられないかもよ」「じゃあ、それで」解決するというんですかね。



かわいい小物も作ってくれました
材料はどんぐりとまつぼっくり

十二月某日

英語科から、英語の絵本の購入希望があったので書店で探す。目的の本が全然見つけれず、店員さんに尋ねると隣の間に見つけてくださり、とても恰好よく見えた。自分も職場の資料を熟知できるように頑張らなくては。

十二月某日

生徒が使用中にコピー機が不調に。紙詰まりを取り除き、リセットボタンを押しても直らないので「電源切っちゃえ」「先生そういうの、多いですよ」そういうのって何だ?

十二月某日

書架を見ていた生徒が「脳出血の本がない」というので神経科の棚に案内し、「一緒に資料をめくっていたら気が遠くなってきた。看護科のあ

る学校に勤めているくせに血が苦手なのだ。「目次を見て必要な病名が出てるのを選ぶんだよ」「先生もうちよつと頑張ってくださいよ」の声を背に退散。

十二月某日

冬休みに入り来館者もまばらだが、借りに来てくれた生徒が「誰も来ないので何で開けてるんですか？」アタタミたいな生徒のためじゃないか、という言葉は恩着せがましいので飲み込む。司書の仕事は貸出返却だけでないことをアピールしておこうと思ひ、購入した図書の山や、登録済でブックコートを貼らなくてはならない図書の山を指さして「こんなに仕事が残って、お正月が迎えられるか心配」「先生どうせ独り淋しく過ごすんだからいっそ正月も働いたらどうですか」ああ、前号の二熊さんとは何たる違いだろう。だがしかし「失礼な、僕にだって里帰りするふるさとくらいあります」

十二月某日

壁に吊るしてある千羽鶴を見た生徒が「これ埃だらけだし、いい加減捨てたら」実はこれ、四年前の赴任当初からほったらかしだ。「でも捨てたら罰が当たりそうじゃない?」「こんなふうにはとくほうがよくばど罰当たりじゃ」というわけで仕

事納めの日に思い切る。

毎日こんな調子ですが、未来ある生徒たちに何かしらの手助けができる素敵な仕事、できるだけ続けていきたいらと思っています。

「岡山県立図書館の
ティーンズコーナー」

岡山県立図書館
サービス第一課 人文科学班
三宅 直子

岡山県立図書館では、新館開館当時から一階正面の一角を「ティーンズコーナー」と名付け、中・高校生への読書活動を紹介するスペースとして活用しています。年度の前半は、県立図書館の各部門が担当し、昨年度は「環境問題を考える」「奈良を知らう」などのテーマを設定して、いろいろな視点から資料を紹介していました。後半は県内高等学校・支援学校に開放しています。今年度は高教研学校図書館部会備前支部協議会司書部会も展示に参加してください、司書さんたちのお薦めの本を一般利用者の方にもお知らせすることができました。

毎年どの学校もディスプレイに工夫を凝らしていて、通りかかった利



2010年度 高教研学校図書館部会備前支部協議会司書部会「みんなが読めばもっと楽しい♪」

用者が足を止めている姿をよく目にする事ができます。段ボールなどを使った作品や、天井近くまで貼られた展示物などは遠く離れたところからも人目を引き、その展示の仕方は私たち司書にとっても大いに参考になります。

またおもしろい試みとして、「自然を愛した作家たち」というテーマで展示した際に「エコバッグ」の作り方のプリントを作成したり、「不思議の国のアリス」に関連する展示を行った際にオリジナルブックカバーを作成したりした学校もありました。誰でも自由に持ち帰れるように準備してくださったので、どちらもいつの間にか全てなくなり、利用者から「手に入れることはできないか」という反響もありました。



2010年度 岡山県立総社南高等学校「アリスとゆかいなとじょいんず」

こうして毎年多くの方のご協力のもとに、少しずつ発展を続けているティーンズ展示コーナーですが、残念ながらその存在をご存じでない方が多いのも現実です。遠方にお住まいで、なかなか県立図書館まで足を運ぶことが難しいという方もいらっしゃると思います。そこで今年度から県立図書館のホームページのYA展示コーナーに、従来の展示写真だけでなく、紹介する本のリストや学校の紹介などを入れて、より情報量を多くし、「ティーンズのひろば」という通信も創刊したので、併せてご利用いただければ幸いです。

今後も多くの方に支えられながら、ティーンズ展示コーナーの輪をさらに広げ、情報を発信していきたい

いと思っておりますので、ご協力お願いいたします。



2009年度 岡山県立岡山聾学校
「Woody Library ~森の図書館」

岡山理科大学図書館における
図書展示について

岡山理科大学図書館
坪井 昭訓

「岡山のとしよかん」、一一〇号、一一一号と大学図書館における展示について、先進的な事例についてのご紹介がありました。

今回は、岡山理科大学図書館の展示について、ご説明します。その前に、大学図書館について簡単にご説明します。

「大学図書館とは」

大学図書館は、図書館法に則って成立するものではありません。当然の

ことながら、大学があつて初めて成り立つものであり、建学の理念などに沿つて教育・研究が行われ、図書館も大学のカリキュラムに沿つて蔵書構成が成されています。その主たる利用者は、その大学の学生であり教職員です。つまり、公共図書館とは理念を異にし、活動の目標も異なります。これは、展示一つをとつても同じです。

それでは、我が岡山理科大学図書館では、どうでしょうか。その前に、大学の概略からご説明します。

「岡山理科大学図書館について」

岡山理科大学は、岡山市の北方に位置し、三学部十七学科一コースがあります。学生数は、五四〇〇名程度で、中四国地区では、規模の大きい大学です。教育内容としては、自然科学が学べる私立大学としての特色を持ち、学際領域にとられない柔軟で幅広い講義・研究を行っています。

それゆえ、大学図書館も、自然科学・工学分野を主とし、このほかに教員養成や総合情報学部社会情報学科がありますので、教養図書を中心に、人文・社会科学分野（特に考古学分野については重点収集）をも収集しています。

蔵書の規模としては、図書三十七万冊、製本雑誌十万冊、計

四十七万冊です。特筆すべきは、自然科学・工学・情報科学の分野で、質・量とも中四国一を誇ります。学術雑誌を含めた蔵書の豊かさから、東京大学や岡山県立図書館を始め多くの機関への資料提供も行っています。同時に、地域住民に対しても開放し、利用していただいています。特に、地域開放については、県下で最も積極的に行つたことで、岡山県図書館協会から表彰されたこともあります。

それでは、次に、本館の展示について、ご説明します。

「展示について」

岡山理科大学図書館での展示は、学生からの要望も多かった新着図書についての展示を主とし、この他に時節に沿つた展示や、本学が主体と成つて刊行した図書の展示などを行っています。

時節に沿つた展示について、例えば、昨年の六月に小惑星探査機「はやぶさ」が、地球に帰還した際には、「はやぶさ」に関する図書や話題となったイオンエンジンに関する専門資料のほか、同日の新聞記事を表示するために、天井から「はやぶさ」のペーパークラフトを吊り下げました。

また、昨夏、岡山市デジタルミュー

ジウムで行われました「ようこそ恐竜ラボへ！」化石の謎をときあかす



ようこそ恐竜ラボへ

（林原自然科学博物館主催）では、本学も協力させていただきました、これに先立ち、本学で特別講演会「恐竜研究入門」を行いましたので、特別講演会の模様や、展覧会のポスターなどを、恐竜の専門書と一緒に展示することで、学生などへのPRを行いました。この展示については、学生からの評判もとても良かった展示となりました。

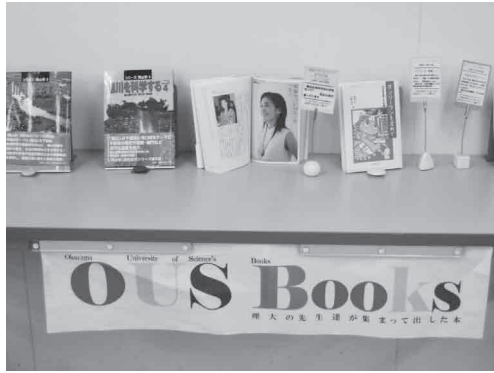
この様な展示を行うことで、専門資料以外にも、社会現象などに関心を持つてもらふことで、本学の建学の理念である

建学の理念
創設者 加計 勉

ひとりひとりの
よき人が群を成すと
第一限は利を以てし
私利を以てし
社会人として
社会に貢献できる
人材を養成する

の実現に近づけることができます。一方で、展示を使って、本学の研究内容を、学内外に対して広くお伝えしています。

本館の十一号館入口には、「OUS Books コーナー」として、岡山理科大学の先生方が刊行した本を展示するコーナーを常設しています。ここでは、総合情報学部の先生方が中心として構成している「岡山理科大学『岡山学』研究会」の活動をまとめた、『シリーズ「岡山学」』などを展示しています。



OUS Books コーナー

また、時節の展示についても、例えば、昨年の十月に本学でも教鞭をとっていたことがあった鈴木章先生がノーベル化学賞を受賞された際には、鈴木章先生が実際にご担当なされたシラバスや、ご講演の様

子を、鈴木先生の著書や論文などと共に展示しました。内容が専門的で、教職員や学外の研究者などから、高い評価をいただきました。

また、鈴木章先生の論文の検索方法については、簡単なマニュアルを作成し、姉妹校である倉敷芸術科学大学で行ったデータベース講習会を通じて図書館としても、少しずつ大学としてのブランド構築のお手伝いをしています。



祝！鈴木章先生ノーベル賞受賞

なお、展示の内容については、ブログにて、発信もしています。ぜひ、岡山理科大学図書館ホームページの「今月のオススメ」をごらんください。

【最後に】

いままで堅い話を中心に展示論を展開してきましたが、実際の展示については、分かりやすく親しみやすい

い感じで作っています。近年、大学図書館の話題は、学生による選書の効果ばかり言われていますが、実は、学生が望むものを学生が望むときに提供できることが理想であり、ニーズに応えるばかりではなく、シーズを作っていくような活動も目標とし、より社会に貢献できる人材の育成に努めています。

新春・本の福袋
岡山市立幸町図書館子どもの行事

岡山市立幸町図書館
小林 博子



「新春・本の福袋」準備完了！

岡山市立幸町図書館では、年明け最初の開館日である一月五日に、「本の福袋」を用意しました。五十袋を用意したのですが、三日目には全て貸し出され、利用者の皆さんにご好評いただきました。福袋の中にどんな本が入っているかは、おうちに帰ってからの楽しみ。子どもたちは、おうちの人と一緒に迷いながら

福袋を選び、嬉しそうに手に提げて帰っていききました。

選書を担当した司書は四人。0歳から小学生くらいまでを対象に、相談しながらオススメの絵本や読み物を選びました。その後、「あかちゃんあかちゃんあてっこしましょ」や、「むねがキューン」など、福袋の中身のヒントとなる一言を考えながら、二三冊ずつまとめます。そして、そのヒントを書いたカードを職員手作りの袋に付けて、本を入れていきます。赤ちゃん絵本を十袋、幼児から小学校低学年くらい対象の絵本を二十五袋、小学校中学年以上を対象とした絵本・読み物を十袋、小学校高学年以上を対象とした読み物を五袋という内訳にしました。結果的には、赤ちゃん絵本が最後まで残り、小学校中学年以上と高学年以上を対象にしたものが早々になくなつたので、今回の反省点となりました。



オススメの本コーナーに变身！

次に貸出方法を説明します。福袋

に入れる本の資料番号をエクセルの表に読みとっていき、それぞれの袋ごとにバーコードの形でレシートに印刷します。それに番号を付けファイルしてカウンターに置きます。そして、その番号を福袋に付けたカードにも書いておきます。貸出時には、袋に付けたカードとカウンターのファイルを付け合わせ、該当のレシートのバーコードを読み取るという作業になります。この方法により、袋を開けることなく、手早く貸出処理をすることができました。



どれにしようかな？

また、福袋の中には、おまけとして「大吉ぬりえ」を入れました。面白かった本について書いてくれた子、きれいにぬりえをしてくれた子、力作揃いの「大吉ぬりえ」を掲示して、福袋のコーナーはオススメの本のコーナーに変身しました。今回の企画により、新春という季節感を親子で楽しむと同時に、子ども

もたちの読書の世界が少しでも広がっていったらいいなと思います。



大吉ぬりえ
「アベコベさんがおもしろかったです」

「子ども図書館」フェスティバルについて
（第二十三回 風の子文庫まつり）報告

事務局 角田 恵美

心配していたお天気にも恵まれ、平成二十二年十一月三日秋晴れの空のもとフェスティバルが開催いたしました。

新庄村公民館の大会議室では、開会式をはじめ「岡山県読書推進表彰式」と「一日こども読書大使任命式」が行われました。その後、ボランティアグループ「風の子文庫」による人形劇や子どもたちによる「てぶくろ」の劇が発表されました。この日のために練習してきた子どもたちの元気な声が会場に響きました。別室では県立図書館職員による



劇「てぶくろ」
お面や大道具はすべて手作り

「パパとママのための初めての読み聞かせ講座」や米子工業高等専門学校による「こども科学体験教室」等のイベントが行われました。

その他にも、新庄村歴史民俗資料館では、伝統行事の体験ができるようおじいさん、おばあさんの手ほどきを受けながら草履を作成するコーナーも設けられました。

駐車場では、講談社「全国訪問おはなし隊」のキャラバンカーや絵本・児童書販売、新庄村特産品販売の出



マンツーマンで
わら草履作成中

店が加わり、行列ができる程の大盛況でした。

新庄村保育所も開放され、地域のボランティアや職員による、豚汁や焼きそばなどの出店もあり、友達や家族連れで食事を楽しむ姿が見られました。

今回のフェスティバルでは、新庄村の皆さんに図書館の魅力がアピールできたのではないのでしょうか。

最後になりましたが、多くの方々の御協力のもと盛大に開催できましたことをお礼申し上げます。ありがとうございました。

編集後記

この会報の発行をもって、二十二年度の協会の事業を全て終えることができました。来年度は創立六十周年記念事業を計画しております。これからも協会への御協力お願い申し上げます。

平成二十三年三月一日
〒七〇〇一〇八二三
岡山市北区丸の内二一六―三〇
岡山県立図書館
メディア・協力課 図書館協力班内
岡山県図書館協会
会長 西山 猛
(〇八六) 二二四―二二六九